

(1) 豊野市民センターの目指すべき理想の姿について

- 誰でも寄れる、敷居の高くない施設。
- 多様な人々が学び、交流を図る場を提供する。誰もが利用しやすい環境の整備
- 異世代の交流の場を目指す。
- 異世代、多文化の交流をすすめるため、青少年の参加が必要。
中高生の会議への参加をお願いして、意見を出してもらう。
若い世代の社会活動の実践的な教育の場を希望。
- 若手世代の参加。こどもの参加（親世代の参加や協力）。他地域からの参加。
- 地域のコミュニティの中核として、あらゆる団体（自治会・企業・商工会・学校等）を巻き込んだ地域住民の交流
- 特にこどもの親同士のつながりが薄い中、「ここに行けば交流できる」場としての実感が持てる施設であることを期待。
- 市民センターとなって日が浅いので、まずは、周知をして、異世代、多文化等を目指したら良いと思う。
- 曜日を決めて、フリースペースで地域の野菜即売会を。（その野菜のレシピ添付）



1. 異世代・多文化交流ができる施設

【課題】

- ・ 青少年（中高生）の施設利用・イベント参加の促進
- ・ こどものイベント参加の促進
- ・ あらゆる団体（自治会・企業・商工会・学校等）を巻き込んだ地域交流イベントの開催
- ・ 外国人との交流の場

- 地域の交流、憩いの場として、物作りや体験、見学会、学習などができる施設
- 老若男女が、文化的なふれあい（獅子舞の体験練習等）と現代的な学習（パソコン教室や健康活動等。子どもは学習スペース）に利用できる場
- 市民センター利用の小・中学生及び社会人に対する余暇活動の支援
- 運動系、芸術系、美容系等、いろいろなジャンルが気軽に誰でも学べる場所。
- 地域づくりの拠点として、学びを活かした地域課題の解決や居場所づくりを推進する。
- 学習スペース、図書類を整備し、より多くの人が学べる場所としての施設に



2. いろいろなジャンルを気軽に誰でも学べる施設

【課題】

- ・ 様々な講座の開設
- ・ 地域の人材の発掘
- ・ 図書コーナーの充実（図書館との連携）
- ・ インターネットの活用
- ・ 学習スペースの充実

- 住民以外もその地域の企業も、気軽に利用でき、地域にいる人が利用できる施設。災害時に住民以外も協力しやすくなる。
- 自治会、団体等と連携した防災、防犯の取り組みの拡大を支援する施設に。
- 避難所機能・防災品・情報発信伝達機能等、災害時に豊野地域中核本部役割機能の充実



3. 災害時に豊野地区の対策本部的機能をもつ施設

【課題】

- ・豊野地区災害対策協議会とのより一層の連携

- 豊野地区は市役所が遠いため、行政手続きの利便性が向上する施設に



4. 行政手続きの利便性が良い施設

【課題】

- ・窓口業務拡充の周知
- ・キオスク端末の周知、利用拡大（藤塚公民館にもキオスクを設置）

- ウィルビーイングを実感できる豊野地区として、地域住民が生活をよりよくしようと、やる気を持てる（持たせる）中心となって欲しい。